様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００４５３

研究課題名（和文）「オリジナル」とはどういうことか？―近現代ドイツ語圏文学における「複製」の問題圏

研究課題名（英文）What is an original? Problems of reproduction.

研究代表者
由比　俊行（Yui, Toshiyuki）

岡山大学・全学教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：９０７３７０９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、19世紀以降のドイツ語圏文学に描かれた分身（ドッペルゲンガー）やコピーのモチーフの分析をつうじて、複製との関わりのなかで近代的なオリジナルの観念がどのように捉えられてきたのか、その歴史的変遷の一端を明らかにした。一般には対立的に捉えられる複製とオリジナルの相互関係を浮き彫りにするとともに、オリジナルなものへの欲望が、生と死、記憶と記録といったより根源的な問題領域とも深く関わっていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
オリジナルと複製をめぐる研究はすでに数多く行われているが、その多くは芸術作品の複製、すなわちモノの複製の問題を中心的に取り扱っている。そうした先行研究と比した場合、本研究の意義は、生命・人間の複製可能性というアクチュアルな課題までを視野に収め、オリジナル／複製のテーマを、近代的人間像をめぐる問題として展開した点に求められるだろう。本研究で示された視座は、コロナ禍により加速した社会全体のデジタル化や、今日のいわゆる「ポストヒューマン」的状況をめぐる議論にとっても有効な手がかりとなることが期待される。

研究成果の概要（英文）：Through analyses of doppelganger and copy motifs in German literature since the 19th century, this study reveals some of the historical changes in how the modern idea of originality has been perceived in relation to reproduction. In addition to highlighting the interrelationship between reproductions and originals, which are generally viewed as opposites, the study also revealed that the desire for originality is deeply related to more fundamental issues such as life and death, and memory and documentation.

研究分野：ドイツ語圏文学

キーワード：オリジナル　複製　分身　心霊主義　ポスト複製論　作者性　近現代ドイツ語圏文学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究を着想するに至った直接の契機は、2016 年に開催された日本独文学会秋季研究発表会（於：関西大学）におけるシンポジウム「〈かけがえがない〉とはどういうことか？—近現代ドイツ語圏文学における交換（不）可能性の主題—」にある。近代市民社会を特徴づける「かけがえのなさ」＝「交換不可能性」の理念は、貨幣経済の浸透による「あらゆるものの交換可能性」を背景にして生まれてきたものであり、それ自体矛盾を孕んだ観念である。上記シンポジウムでは、近現代ドイツ語圏文学の作家たちが、それぞれの仕方で「かけがえのなさ」という価値観が孕むこの矛盾を問題化し、人間および身体の交換・代替のモチーフをつうじて、むしろ「かけがえがある」状態を人間の基本的条件として描いてきたことを明らかにした。このシンポジウムの成果を引き継ぎつつ、より包括的な視点から近代的人間像を考察することを目指したのが本研究である。

２．研究の目的

先行するシンポジウムでは、近現代ドイツ語圏文学にあらわれた人間および身体部位の交換可能性の主題に着目し、主として経済的な等価交換原理との関連において、個人の「かけがえのなさ」という価値観を批判的に検討した。このシンポジウムでの議論を踏まえ、本研究では、複製という観点から、「かけがえのなさ」＝「オリジナリティ」をめぐる言説とそれに立脚した近代的人間像を問い直すことを目的とした。具体的には、19 世紀以降のドイツ語圏文学における複製にまつわる主題群（分身、ドッペルゲンガー、亡霊、コピー）の分析をつうじて、近代的なオリジナル（オリジナリティ）の観念の生成と変容の過程を浮かび上がらせることを試みた。

３．研究の方法

近代的オリジナル観念の歴史的変遷を跡づけるため、本研究では 1) 19 世紀のドイツ語圏文学における「オリジナル」と「分身」、2) 19 世紀末の心霊主義における「オリジナル」と「分身」、3）20 世紀以降の複製論の展開、4) 現代文学における「オリジナル」と「複製」、の四つの課題領域を設定し、主として文献調査とその分析によって研究が進められた。当初は海外での資料収集も計画されていたが、新型コロナウィルス感染症の流行拡大により、断念せざるを得なかった。

４．研究成果

20 世紀以降の高度な複製技術やバイオテクノロジーの発達は、近代的なオリジナルの観念の揺らぎを顕在化させることになった。こうした状況から、ともすれば「複製技術によるオリジナルの終焉」が語られもするが、本研究をつうじて浮かび上がってきたのは、オリジナル観念の衰亡史といった単線的なイメージには回収できない、オリジナルと複製が織りなす関係性の多様な局面であった。

18 世紀中葉に新たな美学的理念として登場した「独創性（オリジナリティ）」は、やがて一人ひとりの「個性」と結びつられ、唯一無二の存在としての近代的「個人」の観念に大きな影響を与えることになった。だが、個人のオリジナリティ、とりわけ「わたし」のオリジナリティの追求は、それが結局は他者との比較および他者からの承認によってしか確認されえない価値観であるがゆえに、オリジナリティを求める主体に絶えざる葛藤をもたらす。研究代表者の由比がハインリヒ・フォン・クライスト（1777-1811）の分身劇『アンフィトリュオン』（1807）を例に指

摘したのが、この近代的な自我の苦悩の淵源としてのオリジナリティの問題だった。

一方、研究分担者の藤原は、テオドア・シュトルム（1817-1888）のノヴェレ『ドッペルゲンガー』(1886)の分析をつうじて、個人のオリジナリティと他者との関係性に光を当てた。すでに世を去った人物の「実像」の探求を主題とするこの作品では、しばしば互いに矛盾し合うその人物についての記録や記憶の断片が、「語り」をとおしてひとつの「像」へともたらされる過程が描かれる。つまりここでは、想起と物語によって、他者の心のなかに新たに生み出されるイメージこそが「実像＝オリジナル」として位置づけられるのであり、藤原はこの点に、「他者の中で変容しつづけるオリジナル」のあり方を読み取っている。

研究分担者の熊谷は、ドイツの心霊主義者カール・デュ・プレル（1839-1899）のドッペルゲンガー論を取り上げ、19 世紀末の心霊主義の言説における「オリジナル」と「分身」をめぐる独特な思考を浮き彫りにした。一般には錯覚・幻覚の類として片づけられることの多いドッペルゲンガー現象が、ここでは人間存在にとって決定的に重要な意味を帯びる。というのも、肉体の死後にも生き続ける不滅の魂にこそ本源的価値を認める心霊主義の文脈においては、ドッペルゲンガーとは死後の生の先触れであり、いわばより本来的かつ完全な人間のありようを予感させる現象と見なされるからだ。このような思考が当時のメディア技術の発展からも刺激を得ていたという事実に触れつつ、熊谷は、デュ・プレルらが思い描いたドッペルゲンガー的存在様態は、高度に発達した現在のメディア空間において、技術的に実現されているのではないかと指摘している。

研究分担者の宇和川は、20 世紀以降のオリジナルとコピーをめぐる議論の変遷をたどりつつ、現代ドイツの批評家ボリス・グロイス（1947-）が提唱する「オリジナルの再構築」の戦略について論じた。グロイスによれば、オリジナルとコピーの差は、突き詰めれば、固有の「場所」あるいは「文脈」の有無の問題に還元される。つまり、然るべき「場所」や「文脈」を創設すれば、コピーからオリジナルを作り出すこともまた可能となるのである。そのための手段としてグロイスが注目する「記録」の作業の延長上に、宇和川は、複製技術の新時代にいかに「歴史」を書くのかという新たな問題領域を展望している。

研究分担者の福岡は、クレメンス・J・ゼッツ（1982-）の『BOT.作者なき対談』（2018）を例に、現代におけるオリジナルとコピーをめぐる問題に作者論の観点からアプローチした。インタビュアーの質問に、作者本人ではなく、作者が書き溜めた日記のデータが自動回答することによって成立した「作者なき対談」。このような体裁をとるゼッツの作品は、いかにもインターネット時代における「作者の死」を体現しているように見えながら、その実きわめて両義的な作品であると福岡は指摘する。「作者の死」を演出する様々な仕掛けは、それ自体、むしろ過剰なまでの「作者性」を感じさせてしまうからだ。このような両義性のうちに、福岡は、作者のオリジナリティをめぐる問いそのものを作品化するような、作者論と創作実践との新たな関係性を見て取っている。

以上の研究成果は、2020 年 11 月にオンラインで開催された日本独文学会秋季研究発表会におけるシンポジウムにおいて報告されたのち、2021 年 10 月に日本独文学会研究叢書 147 号『「オリジナル」とはどういうことか—近現代ドイツ語圏文学における複製の問題圏—』として発表された。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 熊谷哲哉	４．巻 62
２．論文標題 ラファエル・フォン・ケーベルとカール・デュ・プレル―明治期日本に伝わったドイツの心霊主義について―	５．発行年 2021年
３．雑誌名 阪神ドイツ文学会『ドイツ文学論攷』	６．最初と最後の頁 25-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 宇和川雄	４．巻 24
２．論文標題 阪神間モダニズムとユダヤ人像――『細雪』、『アドルフに告ぐ』、『ミーナの行進』	５．発行年 2020年
３．雑誌名 神戸・ユダヤ文化研究会『ナマール』	６．最初と最後の頁 2-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 宇和川　雄	４．巻 第68号第1号
２．論文標題 ヴァルター・ベンヤミンにおける普遍史の理念	５．発行年 2018年
３．雑誌名 関西学院大学人文学会『人文論究』	６．最初と最後の頁 229-257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 熊谷　哲哉	４．巻 9
２．論文標題 文学作品をどのように講義に取り入れるか―「国際化と異文化理解」における試み―	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『近畿大学教養・外国語センター紀要　外国語編』	６．最初と最後の頁 83-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 福岡　麻子	4．巻 15
2．論文標題 研究ノート： C.ゼッツ『BOT』における著者不在性の問題	5．発行年 2018年
3．雑誌名 『神戸大学国際コミュニケーションセンター論集』	6．最初と最後の頁 12-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24546/81010643	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 由比　俊行	4．巻 38
2．論文標題 家族の歪んだ肖像―クライスト『O....侯爵夫人』におけるパロディについての覚書	5．発行年 2019年
3．雑誌名 岡山大学ヨーロッパ言語文化研究会『ヨーロッパ言語文化研究』	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計12件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 由比俊行
2．発表標題 苦悩する分身―クライスト『アンフィトリュオン』（1807）におけるユピター像―
3．学会等名 日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム「「オリジナル」とはどういうことか？―近現代ドイツ語圏文学における複製の問題圏―」
4．発表年 2020年

1．発表者名 藤原美沙
2．発表標題 他者の中の「オリジナル」―シュトルムの『ドッペルゲンガー』（1886）におけるヨーン像
3．学会等名 日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム「「オリジナル」とはどういうことか？―近現代ドイツ語圏文学における複製の問題圏―」
4．発表年 2020年

１．発表者名 熊谷哲哉
２．発表標題 複製化する非身体としての自己－カール・デュ・プレルのドッペルゲンガー論－
３．学会等名 日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム「「オリジナル」とはどういうことか？－近現代ドイツ語圏文学における複製の問題圏－」
４．発表年 2020年

１．発表者名 宇和川雄
２．発表標題 複製と歴史－ベンヤミンからグロイスへー
３．学会等名 日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム「「オリジナル」とはどういうことか？－近現代ドイツ語圏文学における複製の問題圏－」
４．発表年 2020年

１．発表者名 福岡麻子
２．発表標題 作者の/と複製－C．J．ゼッツ『BOT．作者なき対談』を例にー
３．学会等名 日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム「「オリジナル」とはどういうことか？－近現代ドイツ語圏文学における複製の問題圏－」
４．発表年 2020年

１．発表者名 Tetsuya Kumagai
２．発表標題 The Influence of German Spiritualism on Modern Japanese Philosophy: Raphael von Koeber at Tokyo Imperial University.
３．学会等名 Science and Spiritualism 1750-1930.(Leeds Trinity University, Leeds, 30-31. 05)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Asako Fukuoka
２．発表標題 Imitation - Kommunikation - Autofiktion. Zur Problematik des Erzaehlers im Internetzeitalter am Beispiel von Clemens J. Setz' Schreibexperiment BOT
３．学会等名 Asiatische Germanistentagung 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 福岡麻子
２．発表標題 クレメンス・ゼッツにおける「コピー」と「オリジナル」BOT.における「制度としての作者」について
３．学会等名 クレメンス・ゼッツ：ポストヒューマニズムの文学、首都大学東京
４．発表年 2019年

１．発表者名 Misa Fujiwara
２．発表標題 Ueberlegung zum " Fremden" in Eichendorffs Das Marmorbild.
３．学会等名 Asiatische Germanistentagung 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 藤原美沙
２．発表標題 アイヒェンドルフの『大理石像』（1819）における自我とドッペルゲンガー
３．学会等名 京都女子大学人文学会公開講座
４．発表年 2019年

１．発表者名 宇和川　雄
２．発表標題 阪神間モダニズムとユダヤ人像――『細雪』、『アドルフに告ぐ』、『ミーナの行進』
３．学会等名 神戸・ユダヤ文化研究会第三回文化講座
４．発表年 2018年

１．発表者名 熊谷　哲哉
２．発表標題 クリスティーネ・ヴニケにおける狂気とオカルティズム
３．学会等名 ドイツ現代文学ゼミナール
４．発表年 2018年

〔図書〕　計4件

１．著者名 由比俊行編，由比俊行，藤原美沙，熊谷哲哉，宇和川雄，福岡麻子	４．発行年 2021年
２．出版社 日本独文学会	５．総ページ数 61
３．書名 「オリジナル」とはどういうことか―近現代ドイツ語圏文学における複製の問題圏―（日本独文学会研究叢書147号）	

１．著者名 宇和川雄・籠碧（翻訳）	４．発行年 2020年
２．出版社 幻戯書房	５．総ページ数 299
３．書名 シュテファン・ツヴァイク『聖伝』	

1．著者名 Misa Fujiwara（共編著）	4．発行年 2020年
2．出版社 Iudicium	5．総ページ数 1012
3．書名 Einheit in der Vielfalt? Germanistik zwischen Divergenz und Konvergenz. Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo, S. 138-145.	

1．著者名 Asako Fukuoka（共編著）	4．発行年 2020年
2．出版社 Iudicium	5．総ページ数 1012
3．書名 Einheit in der Vielfalt? Germanistik zwischen Divergenz und Konvergenz. Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo, S. 571-577.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	熊谷　哲哉 (Kumagai Tetsuya) (20567797)	近畿大学・経営学部・准教授 (34419)	
研究分担者	藤原　美沙 (Fujiwara Misa) (20760044)	京都女子大学・文学部・講師 (34305)	
研究分担者	宇和川　雄 (Uwagawa yu) (30779385)	関西学院大学・文学部・准教授 (34504)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	福岡　麻子 (Fukuoka Asako) (40566999)	東京都立大学・人文科学研究科・准教授 (22604)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
Winfried Menninghaus: "Lust an negativen Gefuehlen in der Kunstrezeption"	2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関